
魔王、勇者を倒しに旅に出る。

今ダ 果枯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王、勇者を倒しに旅に出る。

【Nコード】

N8549Z

【作者名】

今ダ 果枯

【あらすじ】

魔王は、随分退屈していたようです。

「暇だあ、アリアなんか退屈しのぎはないか？」

「暇ではありませんよ魔王様！」 書類の山”と闘って下さい！”
横になりながら小説を読む魔王に対して、メイド、アリアは突っ込む。

「ああ、あれは強敵だったよ、今の僕じゃ勝てる気がしない、アリア、代わりに相手をしてやってくれ」

「冗談はいいです魔王様、さつさと事務を済ませて下さい！」

「仕方ないなアリア、サイナを呼んでくれ、アイツ隠れどエムだから、何だかんだ言っただけでやってくれるよ」

そういつつ魔王は素早く窓から飛び降りる。

「あつ、魔王様！！」

事務なんてやってられないな。アリアはあれで過激派だからなあ。本とか燃やされないといいけど。

遠くをみながら魔王は考える。衝撃吸収魔法を発動し綺麗に着地する。

「本当に暇だなあ、いや本当は暇じゃないんだけど」

感知魔法を広範囲に広げ魔王は最近、転生してきたばかりと言う。勇者の様子をみる。

「うん、うん、順調に育って来てるなあ」

魔王は勇者の実力を測って満足する。最近の魔王の日課であった。実力こそ魔王の百分の一程しか、ないが十分伸びしろを感じる。まだまだ、強くなる。

しかしなあ。

魔王は少し不満を感じていた。

流石に遅い、成長が遅い。何を悠長にハーレムなんか作っているんだか。

人間国の王族や貴族、特に女があまりにも過保護に勇者育成を行

うせいで、勇者の成長速度は、地獄の様な修練の日々の中、ありえないほどの速度で成長していった魔王からしてみればカタツムリほどの遅さを感じた。

魔王は戦闘狂と言う訳ではない。どちらかと言えばカリスマ性溢れる人格者である。

魔王はピンチに強い人間と言うよりもピンチになるまで本気を出さない人間であった。

楽しいことを好み、退屈を嫌った。

勇者と闘いたい、でも、今の勇者と闘っても結果なんて見えてるし。多分、挙動一つで半身ごっそり持っていけるし。

「はぁー」

魔王はその場にしゃがみ込み頭を抱え込む。

くっそー、そもそも勇者の取り巻きの女どもが邪魔なんだ。

過保護だし、ハーレムだし。毎晩毎晩ハッスルだし。本当に邪魔だな一掃してしまおうか？

魔王は一瞬真剣に考え首を横に振る。

そんなことして、勇者が僕を恨んで、決起して血も滲むような修練に励んでくれたらいいけど。再起不能になったら目も当てられん。

「はー、何かいい案はないかなぁー」

かなり煩わしいなあ。

魔王は深く考え込んでしまう。

「見つけましたよ、魔王様」

魔王が振り返ると眼鏡をかけた理知的な風貌をした女性が立っている

「キャサリー？ どうしようー!？」

魔王は目に涙を浮かべ、キャサリーに今にもすがりだしそうな顔を
をする。

ふっふっふ、キャサリー泣き落としに弱い。僕に喧嘩売ろうなんて百年早いわ！

「ど、どうしたのですか魔王様!？」

案の定キャサリーはオドオドと困惑する。

魔王はさらさらとした金髪を垂らしてフルフルと首を横に振る。

髪ながくて良かったなあ、笑いを堪えてるのがばれてしまう。

「ゆっくり話して下さい、魔王様」

よし。

「ありがとう、キャサリー、実は私的に相談したいことがあったんだ」

「いえ、魔王様に頼られるなんて光栄の極み」

「硬くなるな、キャサリー、本当に私的なことなんだ」

「は、はい!」

完璧に硬くなっているキャサリーに微笑みかける魔王。キャサリーは顔を赤くする。

キャサリーはこれでオツケー。

魔王は勇者と違って自分の魅力を余すことなく理解していた、どう微笑めば綺麗に見えるか、どう怒った表情をぶつければ、相手に威圧を掛けられるか。魔王は自分の美貌や相手の向ける好意というものを十分理解していた。

その辺り、勇者は駄目だなあ、自分の魅力を振りまき続けるからハーレムとか作って身動きがとれなくなる。

「キャサリー、今、僕には一人の気になる兵士がいるんだ」

「誰ですか!？」

素早く食いつくキャサリーに魔王は若干困った表情をつくる。

「女じゃないぞ」

「そ、そうですね」

「僕の見立てじゃ結構才能があると思うんだが、あまり勤勉な方じゃない」

「なるほど」

「そいつに、うまいこと直接手を下さずに頑張るよう仕向けたいんだが、どうしたらいい?」

「なるほど、難しい問題ですね」

真剣に考えるキャサリーをみて魔王は心から微笑む。

些細なことでも真剣に考えられるのがキャサリーのいいところだな。

「例えば、人づてにプレッシャーを掛けてみるとか？」

「うん、なるほど」

キャサリーの顔にはあまり上手くアドバイスできなかったと書いてある。しかし

「なるほど、なるほど、キャサリーいいぞ、うん、有難う」

魔王はキャサリーの頭を撫で、颯爽と自分の部屋へと向かう。

「アリア!!」

「は、はい、魔王様!!」

ドアをバンと強く開き、メイドの名前を大きな声で呼ぶ。

「旅に出るぞ!!」

「は、はひ!？」

アリアは強引に弱いからな、有無を言わず速攻。

「今から内政は爺やとサイナに任せる」

魔王はにやつと笑みをつくり更に問題発言を付け足した。

「今から、魔王は勇者を倒しに旅に出る、ことを出来るだけ広くに知らせてくれ!!」

魔王はこれから起こること想像しニヤリと笑みを深めた。

(後書き)

アンチハーレムものとか、反勇者ものとかも結構書いてます。
何流行に逆らったものが割と好きです。でも、流行の異世界転生
とかも大好きです。

楽しんで頂けたなら、幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8549z/>

魔王、勇者を倒しに旅に出る。

2011年12月26日23時58分発行